

2006年度 決算説明会

富士フイルム ホールディングス株式会社
2007年4月27日



本資料における業績予想及び将来の予測等に関する記述は、現時点で入手された情報に基づき判断した予想であり、潜在的なリスクや不確実性が含まれております。従いまして、実際の業績は、様々な要因によりこれらの業績予想とは異なることがありますことをご承知おき下さい。

2006年度 連結業績

■ 業績概要

(単位: 億円)

	2006年度		2005年度		増減	
	金額	%	金額	%	金額	%
売上高	100.0%	27,825	100.0%	26,674	+1,151	+4.3
営業利益①	7.4%	2,071	5.8%	1,564	+507	+32.4
構造改革費用		941		860	+81	-
営業利益②	4.1%	1,130	2.6%	704	+426	+60.5
税引前利益	3.7%	1,032	3.0%	796	+236	+29.7
当期純利益	1.2%	344	1.4%	370	-26	-6.9
設備投資*		1,652		1,798	-146	-8.1
減価償却費		2,154		2,254	-100	-4.4
研究開発費	6.4%	1,770	6.8%	1,821	-51	-2.8
為替: 米ドル		117円		113円		+4円
ユーロ		149円		138円		+11円

* 有形固定資産のみ。(ドキュメントソリューション部門のレンタル機器を除く)

■ 構造改革の進捗

構造改革は順調に進展し、計画通り当年度に完了

2006年度 構造改革費用

(単位:億円)

※スリム&ストロング活動関連費用を含む

内容別内訳

	第4四半期	通算
資産関連他	250	549
人員関連	245	392
投資有価証券評価損 (営業外費用)	8	224
構造改革費用 計	503	1,165

事業セグメント別内訳

	第4四半期	通算
イメージング	283	601
インフォメーション	45	173
ドキュメント	167	167
構造改革費用 (営業内) 計	495	941

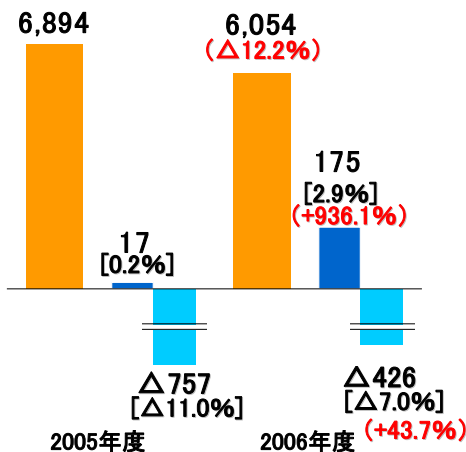
事業別セグメント情報

■ イメージング ソリューション

売上高*・営業利益

- 売上高
- 営業利益(構造改革費用抜き)
- 営業利益(構造改革費用込み)

単位:億円
 []:営業利益率
 (:):前年比



*セグメント間取引消去後

業績のポイント

売上高

売上高:6,054億円(前年比 △12.2%)

- カラーフィルムやデジタルミニラボの販売は後退したが、カラーペーパーはシェアアップ効果等により売上が増加。

営業利益

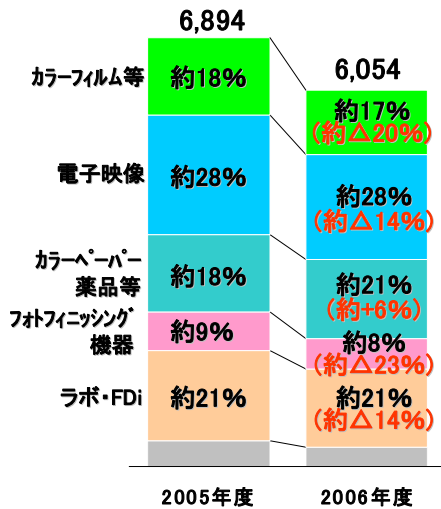
構造改革費用抜き 175億円(前年比+936.1%)
 構造改革費用込み △426億円(前年比+43.7%)

- 構造改革費用、銀価格の高止まり等の影響を構造改革効果やカラーペーパーの販売増効果により吸収。

【事業別ハイライト】

売上構成比 (対前年増減率)

単位:億円



カラーフィルム等

- 競合他社の市場撤退を捉えた販促が奏功し、当社の市場シェアは上昇。
- 2006年7月より国内外で順次値上げを実施。

電子映像

- 2006年度の当社デジカメ販売数量は、ワールドワイドで、660万台。
- 顔検出機能を搭載した新製品FinePix「F31fd」「Z5fd」が販売好調。
- エントリーモデルを中心に価格競争が激化。

カラーペーパー・薬品等

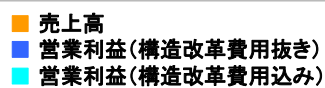
- カラーフィルムからのプリント需要減少の中、主要国でのシェアアップに加え、デジカメプリントの増加により、販売数量が拡大。

フォトフィニッシング機器

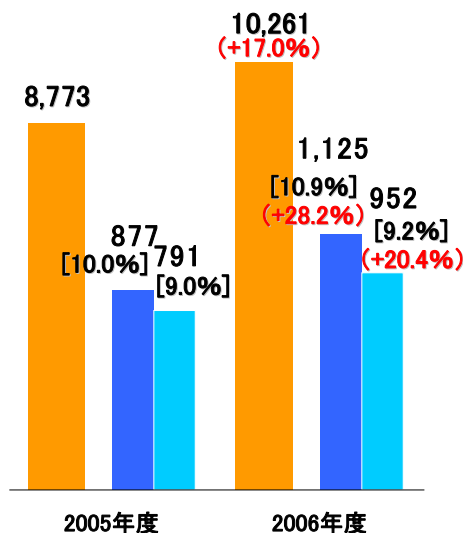
- 大手取引先への導入が一巡し、販売は減少したが、中小規模店向け設置強化を推進。
- ノーリツ鋼機とのアライアンスによる新機種を開発。

■ インフォメーション ソリューション

売上高*・営業利益



単位:億円
[]:営業利益率
():前年比



*セグメント間取引消去後

業績のポイント

売上高

売上高:10,261億円(前年比+17.0%)

- メディカルシステム事業をはじめ、いずれの事業分野も概ね堅調に推移。
- 今期に買収した複数の新規連結子会社の売上が寄与。

営業利益

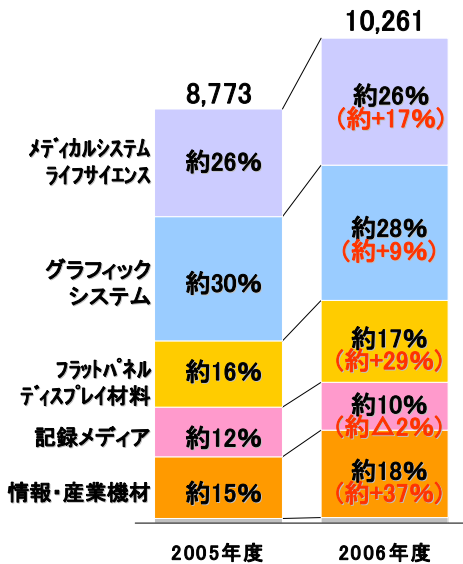
構造改革費用抜き 1,125億円(前年比+28.2%)
構造改革費用込み 952億円(前年比+20.4%)

- 銀、アルミ価格の高騰による影響を販売数量増効果や生産設備のスリム化等が吸収し、大幅な増益。

【事業別ハイライト】

売上構成比
(対前年増減率)

単位: 億円



メディカルシステム・ライフサイエンス

- 医用画像情報ネットワークシステムSYNAPSE、ドライフィルム等の販売が伸長。
- 米国でCR方式として世界で初めてFDAのPMA認可を取得したFGRマンモグラフィーの販売を開始し、引き合いは堅調。
- 内視鏡は豊富な製品ラインナップが国内外に評価され売上を大幅に増加。
- 富士フィルムRIファーマ(旧: ㈱第一ラジオアイソトープ研究所)の売上が寄与。

グラフィックシステム

- 世界的なCTP化の進展によりCTPプレート関連の販売は順調。

フラットパネルディスプレイ材料

- フジタック、WVフィルムは引き続き販売を拡大。
- 2006年10月、富士フィルム九州(株)のフジタック製造用第1工場が稼働し、2007年2月に第2ラインも稼働。

記録メディア

- ミッドレンジ系データストレージ分野における価格競争激化の影響を受けたがデータメディア分野では大容量のLTO Ultrium3とIBM社「3592」向けテープが販売堅調を維持。

情報・産業機材

- オートフォーカス化・ズーム化に対応したカメラ付携帯電話用レンズユニットが市場で高い評価を受け売上拡大。
- インクジェットプリンター向けインク材料ビジネスを展開する新規連結子会社FUJIFILM IMAGING COLORANTS LIMITEDの売上を計上。

LTO Ultriumは、IBM社、Hewlett-Packard社、Quantum社の米国及びその他の国における登録商標です。 6

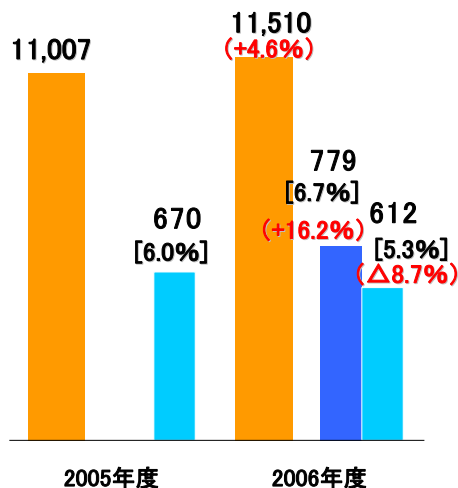
■ ドキュメント ソリューション

売上高*・営業利益

業績のポイント

- 売上高
- 営業利益(構造改革費用抜き)
- 営業利益(構造改革費用込み)

単位: 億円
[]: 営業利益率
(): 前年比



*セグメント間取引消去後

売上高

売上高: 11,510億円(前年比 +4.6%)

- カラーデジタル複合機の販売が欧米向け、アジア・中国地域で好調に推移。

営業利益

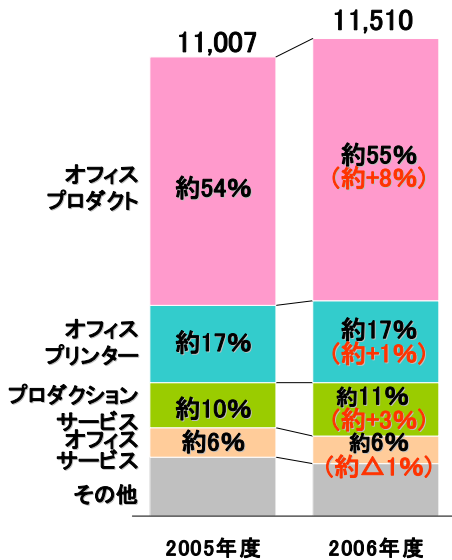
構造改革費用抜き 779億円(前年比 +16.2%)
構造改革費用込み 612億円(前年比 △8.7%)

- 構造改革費用を除いた営業利益では、アジア・中国市場における販売増に伴う「販売費・一般管理費」の増加はあるものの、原価改善が寄与し、大幅増益。

【事業別ハイライト】

売上構成比 (対前年増減率)

(): 前年比 単位: 億円



オフィスプロダクト

- 国内においては、カラー普及機「DocuCentre G2100」と中高速機「ApeosPort- II シリーズ」のラインアップを強化しカラー機の販売台数が増加。
- カラー機が欧米向け輸出とアジア・中国地域で引き続き好調。

オフィスプリンター

- 国内自社ブランドのカラー新製品販売が伸長。
- 国内OEM供給先の在庫調整の影響を受け、国内OEM販売台数が減少。
- 欧米OEM向け輸出で中速モノクロ機が継続して好調。

プロダクションサービス

- 国内及びアジア・中国地域でカラー・オンデマンド・パブリッシングシステムの販売台数が大幅に増加。
- 国内において市場拡大が見込まれるデジタル印刷市場向け、オンデマンド・パブリッシングシステムを発売し、ラインアップを強化。

オフィスサービス

- ドキュメントアウトソーシングビジネスが引き続き伸長。
- 戸籍電子文書管理システムは前年同期の納入の特需により減収。

8

参考データ

■ 業績概要 第4四半期

(単位: 億円)

	2006年度 第4四半期		2005年度 第4四半期		増減	
	金額	%	金額	%	金額	%
売上高	100.0%	7,140	100.0%	6,821	+319	+4.7
営業利益①	5.8%	411	6.6%	451	-40	-8.9
構造改革費用		495		763	-268	-
営業利益②	-1.2%	-84	-4.6%	-312	+228	+73.1
税引前利益	-1.3%	-90	-4.4%	-303	+213	+70.3
当期純利益	-2.0%	-140	-3.4%	-232	+92	+39.8
設備投資*		647		558	+89	+15.8
減価償却費		563		687	-124	-18.0
研究開発費	6.2%	439	6.6%	448	-9	-2.1
為替: 米ドル		119円		117円		+2円
ユーロ		156円		140円		+16円

* 有形固定資産のみ。(ドキュメントソリューション部門のレンタル機器を除く)

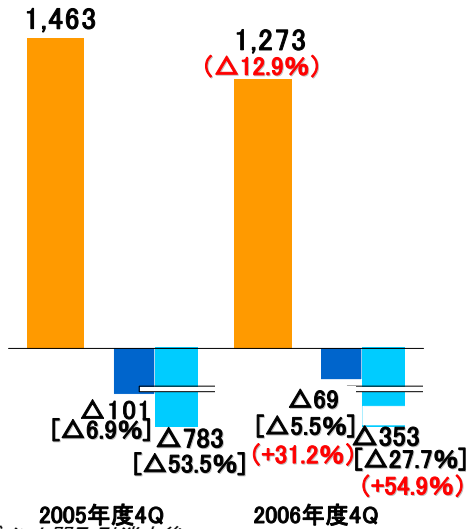
9

■ イメージング ソリューション 第4四半期

売上高*・営業利益

- 売上高
- 営業利益(構造改革費用抜き)
- 営業利益(構造改革費用込み)

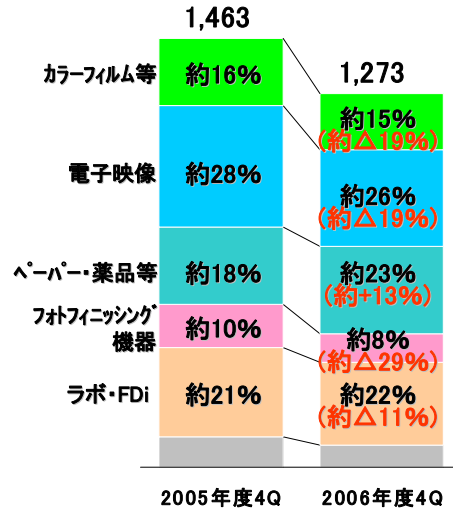
単位:億円
 []: 営業利益率
 (): 前年比



*セグメント間取引消去後

売上構成比
(対前年増減率)

(): 前年比 単位:億円

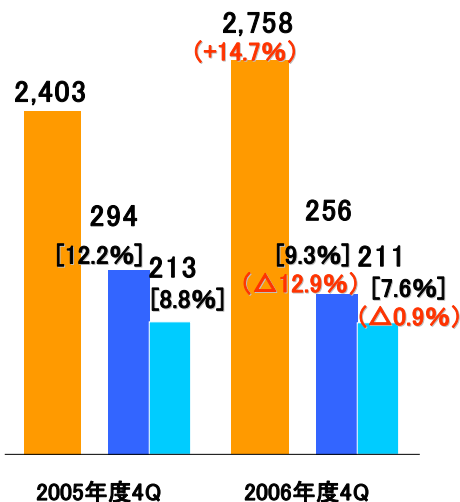


■ インフォメーション ソリューション 第4四半期

売上高*・営業利益

- 売上高
- 営業利益(構造改革費用抜き)
- 営業利益(構造改革費用込み)

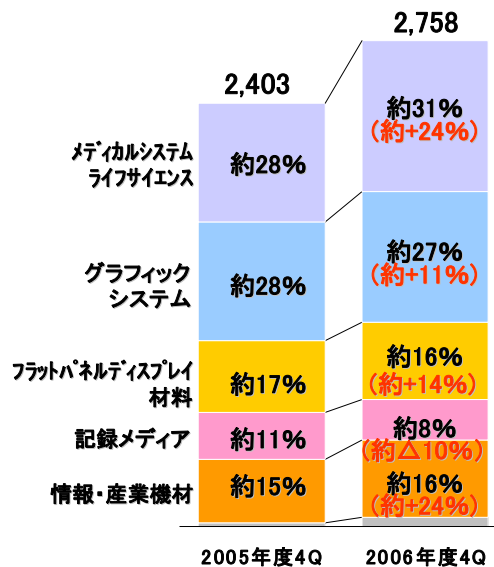
単位:億円
 []: 営業利益率
 (): 前年比



*セグメント間取引消去後

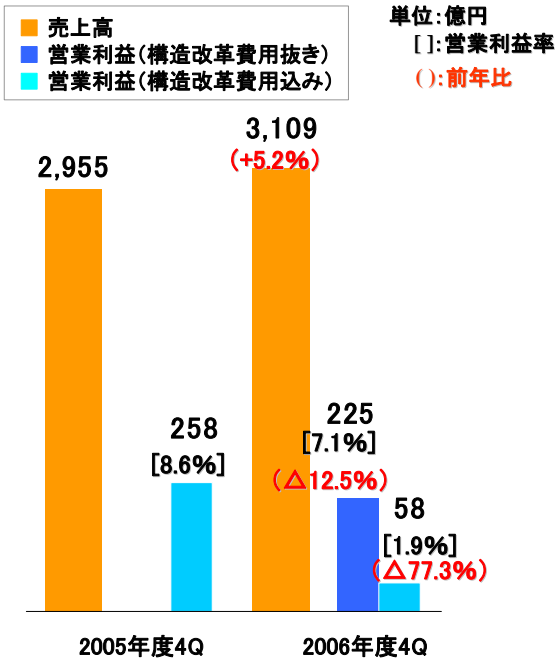
売上構成比
(対前年増減率)

(): 前年比 単位:億円



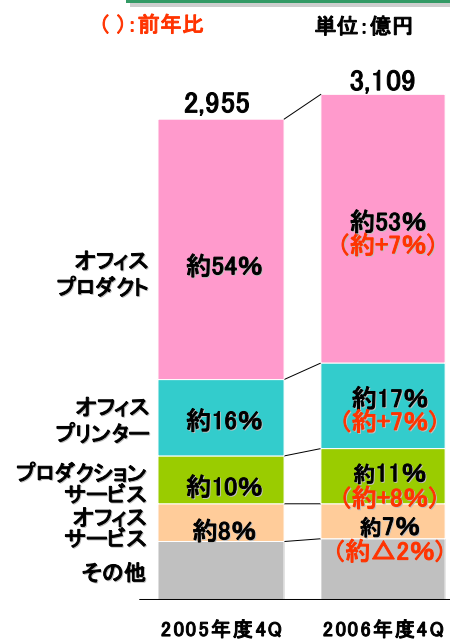
■ ドキュメントソリューション 第4四半期

売上高*・営業利益



*セグメント間取引消去後

売上構成比
(対前年増減率)



■ 2006年度に実施した主なM&A

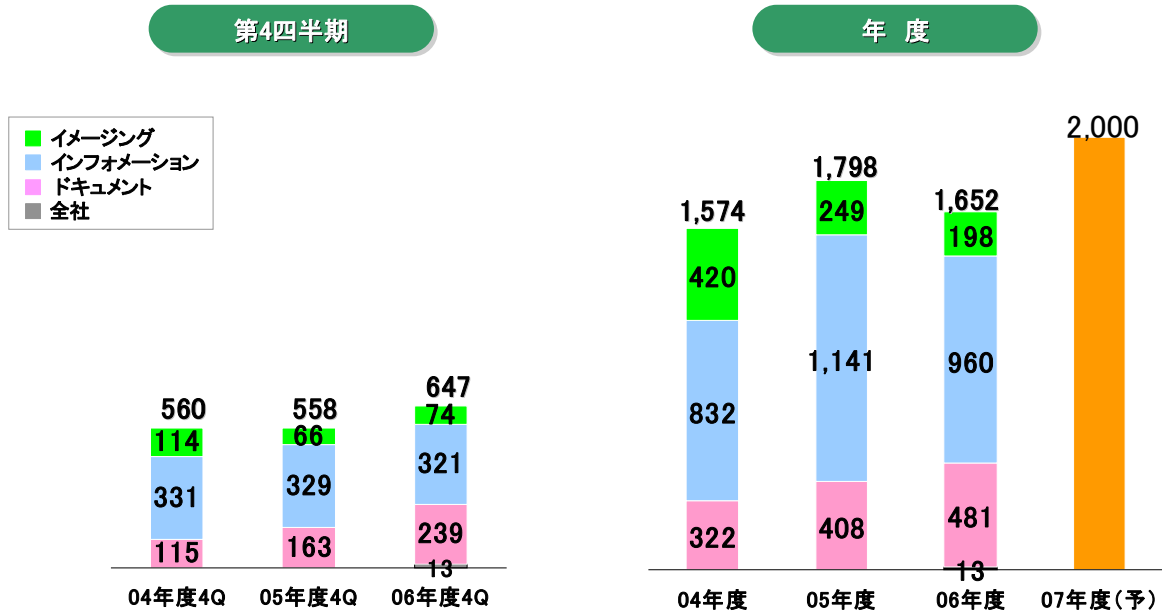
年月	分野	主なM&A
'06.07	インクジェット用インク	産業用インクジェットプリンター用ヘッドのトップメーカー 米国Dimatix社を買収し、インクジェット事業を強化
'06.10	グラフィック	オセアニアの印刷製版機材販売代理店の事業を買収し、直販体制を構築
'06.10	メディカル	放射線医薬品のリーディングメーカー 富士フイルムRIファーマ (旧株)第一ラジオアイソトープ研究所)の全株式を取得し、メディカル事業領域を拡大
'06.12	メディカル	循環器部門向け医療画像情報システムメーカーProblem Solving Concepts Inc.を買収し、メディカル事業領域を拡大

■ 2007年度4月以降

'07.04	メディカル	住商情報システムより内視鏡・超音波・病理の各部門システム事業を譲受
--------	-------	-----------------------------------

■ 有形固定資産の設備投資額※

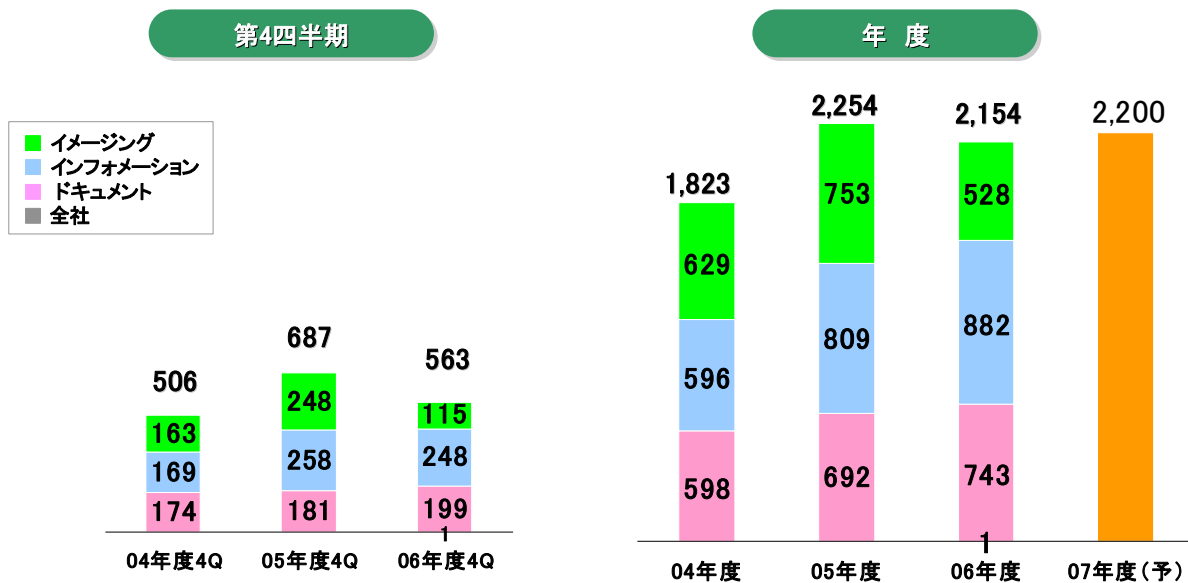
(単位:億円)



※ドキュメントソリューション部門のレンタル機器を除く。

■ 減価償却費

(単位:億円)



有形固定資産※の減価償却費 (単位:億円)

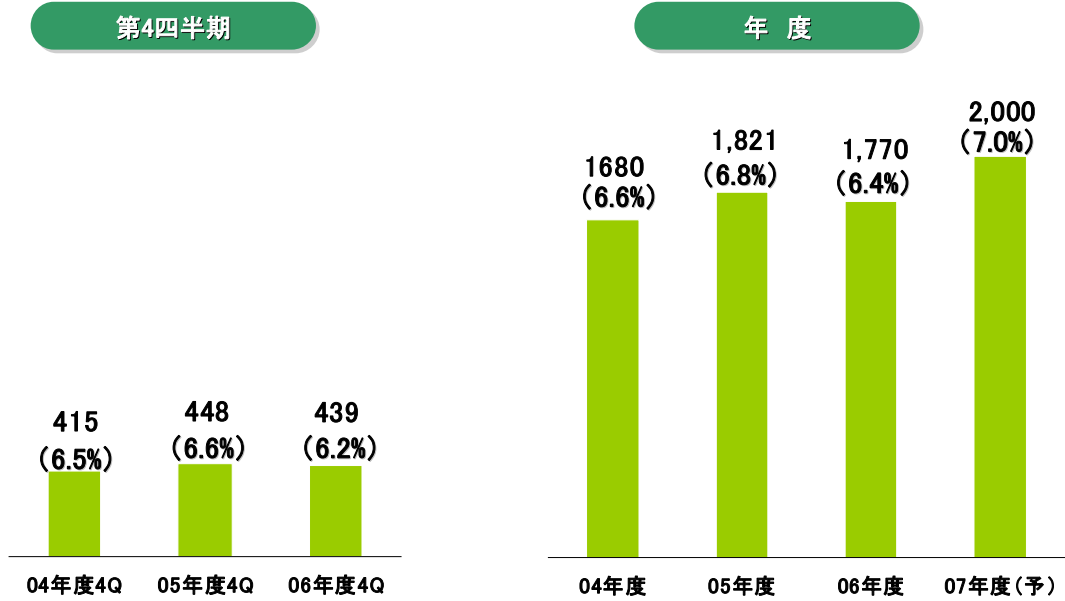
364	519	385
-----	-----	-----

1,304	1,569	1,464	1,500
-------	-------	-------	-------

※ドキュメントソリューション部門のレンタル機器を除く

■ 研究開発費

(単位:億円)



()は、売上高に対する研究開発費の比率

■ 為替、人員、株主構成

● 為替

(単位:円)

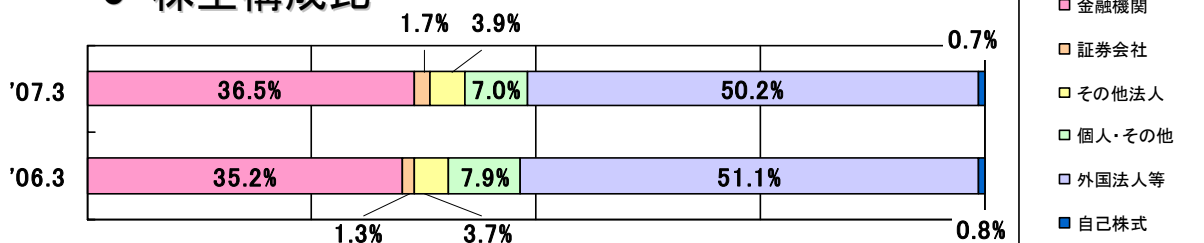
	2007年度 (予)	2006年度				2005年度				
		1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	
米ドル	115	115	116	118	119	117	108	111	117	113
ユーロ	145	143	147	151	156	149	136	135	139	140

● 期末人員

(単位:名)

	2007.3末	2006.9末	2006.3末
連結	76,358	78,411	75,845

● 株主構成比



FUJIFILM

わたしたちは、先進・独自の技術をもって、
最高品質の商品やサービスを提供する事により、
社会の文化・科学・技術・産業の発展、
健康増進、環境保持に貢献し、
人々のクオリティ オブ ライフのさらなる向上に寄与します。

富士フイルム ホールディングス株式会社

経営企画部 IR室

<http://www.fujifilmholdings.com>